

# SDGs 達成に貢献する ESG 投資

## ESG 投資拡大の背景と期待される役割

金融調査部 SDGs コンサルティング室

研究員 柿沼英理子

SDGs を達成するための1つの手法として ESG 投資が注目されています。ESG 投資は、投資の意思決定に環境、社会、ガバナンスといった非財務情報を考慮するものであり、国連の PRI（責任投資原則）への署名機関の増加とともに世界的に増加傾向にあります。ESG の3つの要素は SDGs の17の目標と関連性が高いことから、ESG 投資の拡大は SDGs の達成に貢献するものと考えられます。

### ESG 投資とは何か

2006年、当時の国際連合事務総長であったコフィー・アナン氏らが中心となり提唱した PRI（Principles for Responsible Investment：責任投資原則）は、持続可能な社会を実現するため、機関投資家に ESG（環境、社会、ガバナンス）を考慮した責任投資を促すものです。2018年までに世界で2,232<sup>1</sup>の機関投資家などが PRI に賛同し、署名しています。日本からも世界最大の運用資産額を有する GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）が2015年9月に署名し、大きく注目されました。PRI への署名機関の増加とともに、ESG 投資の残高も増加しており、2017年末時点（日本のみ2018年3月末時点）の ESG 投資残高は世界で31兆ドル<sup>2</sup>に達しました。図表1の通り、いずれの国・地域においても、2015年末比で増加していることがわかります。日本の ESG 投資残高も大きく増加しています。

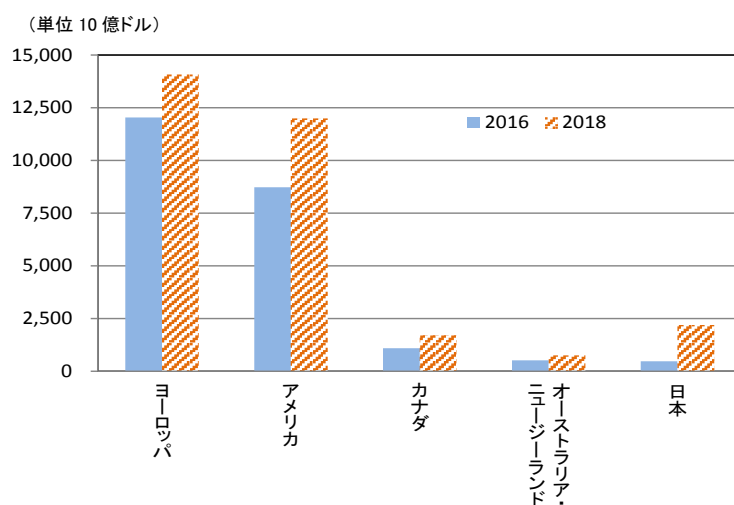
ESG 投資と一言でいっても、その手法は図表2で示した通り、様々です。例えば、「ネガティブ・スクリーニング」や、「国際規範スクリーニング」は、特定の産業や企業を投資対象から排除する手法です。これらは、SRI（Socially Responsible Investment：社会的責任投資）の流

<sup>1</sup> PRI News and press “PRI signatory growth shows strong momentum”（2019年1月24日）より  
<https://www.unpri.org/news-and-press/pri-signatory-growth-shows-strong-momentum/3987.article>（2019年4月24日アクセス）

<sup>2</sup> GLOBAL SUSTAINABLE INVESTMENT ALLIANCE “2018 GLOBAL SUSTAINABLE INVESTMENT REVIEW”より

れを受け継いだ投資手法といえます<sup>3</sup>。「ESG インテグレーション」は、投資判断材料に財務情報だけでなく、ESG 情報も加えて分析・評価する手法です。投資リスクを低減し、中長期的に安定したリターンを得ることができると考えられています。また、経済的なリターンだけでなく、社会的課題や環境問題の解決を狙ったインパクト投資という手法もあります。

図表 1 : ESG 投資残高



(注) 年数は報告書の公表年であり、残高は前年末の値(日本は前年度末)。  
(出所) GLOBAL SUSTAINABLE INVESTMENT ALLIANCE “2018 GLOBAL SUSTAINABLE INVESTMENT REVIEW” より大和総研作成

図表 2: ESG 投資の手法

投資手法	概要
ネガティブ・スクリーニング	武器、たばこ、ギャンブル、化石燃料など特定のESG基準を満たさない業界や、関連する企業などを投資対象から除外する手法
ポジティブ・スクリーニング	相対的にESGパフォーマンスが高い業界や企業に投資する手法
国際規範スクリーニング	環境や人権など、国際規範を順守しない企業を投資対象から除外する手法
ESGインテグレーション	財務情報だけでなく、ESG情報も含めて分析・評価し、投資対象を選定する手法
サステナブル・テーマ投資	サステナビリティに関連したテーマ、資産に対して投資する手法
インパクト/コミュニティ投資	社会的課題や環境問題の解決を狙った投資
エンゲージメント/投資家行動	エンゲージメント(対話)や株主提案、議決権行使を通じて、企業などにESGへの取組を促す手法

(出所) GLOBAL SUSTAINABLE INVESTMENT ALLIANCE “2018 GLOBAL SUSTAINABLE INVESTMENT REVIEW”より大和総研作成

<sup>3</sup> ESG 投資と SRI の関係については、伊藤正晴 ESG 投資を考える 第1回「ESG 投資とは何か ～多様化する企業価値評価の視点～」(2015年12月14日、大和総研 ESG の広場)を参照。

[https://www.dir.co.jp/report/research/introduction/financial/esg-investment/20151214\\_010432.html](https://www.dir.co.jp/report/research/introduction/financial/esg-investment/20151214_010432.html)

## SDGs 達成の手段としての ESG 投資

ESG 投資の 3 つの要素は、SDGs（持続可能な開発目標）の各目標との関連性が高く、ESG 投資の拡大は SDGs 達成に貢献するものと考えられます。ESG 投資が普及し、資金の流れをサステナブルな産業や企業、事業に振り向ける動きが加速すれば、企業もこれに応じてよりサステナブルなビジネスモデルを開発する、といったサイクルを生むことが期待されます。

例えば、SDGs のうち、環境や気候変動に関する目標については、製造業を中心とする相対的に環境への負荷が大きい産業の取り組みが特に重要になりますが、機関投資家がこうした業種に属する企業に対し、積極的な取り組みを求めることで、SDGs の達成に向けた成果が得られることが考えられます。

SDGs 達成に対して ESG 投資を実効的なものにするためには、温室効果ガスの排出量等、企業が開示する情報の正確性が求められます。一方の投資家側にも企業が開示する情報をきちんと精査する能力が求められます。これまで見てきた通り、ESG 投資には様々な手法があることに加え、社会的なインパクトをどの程度考慮するかは、機関投資家によってもスタンスが異なります。ESG 投資が環境や社会にどれほどインパクトをもたらすのか、また SDGs の達成にどのくらい貢献できるのか、定量的に測定し、効果を実証することは容易ではありません。このように課題も多いですが、SDGs に対してより実効性のある ESG 投資が広がることを期待したいと思います。

(次回予告：第3回「気候変動への対応(1)」)

以上